

話ができる子に育てるには

何かを聞いても、言葉が出てこなかったり、時系列がばらばらだったり、何を話しているか分からなかったりという子がいませんか。私が知っている子にもこのような子がいました。話をしてくることは、毎日遊んでいるゲームの話ばかりで、話の内容はゲームを知らない私には分からないことばかりでした。普段何かを聞いても、返事はなかなか返ってこない、勉強もあまりできない子でした。

でも、好きなことについては自分からいろいろと話そうとするのです。私が忙しそうにしている、「先生、先生、昨日ね、〇〇を作ったんだよ・・・」と、一方的に話をします。このような時、私は、「へえ、そうなんだ。」とか、「それは、めちゃおもしろそうだね。」とか、その子の話を聞くようにしています。また、分からないところは質問をして、どんなことを話そうとしているのか、この子はそのゲームのどこに興味をもっているのかを探るようにしています。その子も、好きなことなので、ちょっと難しい質問にも答えてくれます。そうすると、その子の好きなこと、興味をもっていること、どんなことなら興味をもちそうなのかなど、少しずつ分かってきます。そんなに長い時間話をしているわけではありません。でも、その子は、話を聞いてくれた私に、次の日も何かを話してくれるようになります。毎日は、とても短い会話ではありますが、繰り返しているうちに、その子の話が分かりやすくなってきます。

全く話ができない子でも、自分の興味のあることや、聞いてほしい人に対しては、自分から話すということです。「うちの子は、どうでもよいゲームの話ならするけど、肝心なことは話すことができない。」のではなく、「ゲームの話なら、どれだけでも話をすることができる。」のです。

尾木ママと呼ばれる尾木直樹さんは、子どもの話を 3 つの「きく」で話を聞いてあげてほしいとおっしゃっていました。

(1) 聞く (ミラーリング)・・・聞いた話をそのまま返すように聞くこと

「今日〇〇した。」「そう、〇〇したの。」「〇〇で嫌だった。」「そう、嫌だったの。」

(2) 訊く (アスキング)・・・聞いた話の内容について、尋ねながら聞くこと

「今日〇〇した。」「誰としたの。」 しつこく質問して、うざいと思われぬ程度に。

(3) 聴く (リスニング)・・・子どもの立場になって、気持ちを聞いてあげること

この 3 つのことを実践すると、笑顔でいられるようになって、親子関係がよくなるそうです。(参考 テレビ寺子屋)